

「あすへひとこと」(邑楽町老人クラブ連合会・あすへひとこと編集委員会)は、邑楽町在住の
お年寄りたちの貴重な体験談を、邑楽町あすへひとこと編集委員会が編集・発行したものです。

若い人たちに語り継ぎたい。そして、次の世代に残してほしい貴重な話しをお届けします。

お年寄りたちの貴重な体験談(第八回)

あすへひとこと

父と自動車

私の父の勘蔵は、昭和四十七年八十五才で亡くなりました。私の子どものころの思い出と父母から聞いた話を思い浮かべてペンを取ります。

父が新聞に載っていた自動車を見て、「この車の運転ができたらどんなにいいだろう。よしやってみよう」と思いついたのが、今から七十年も昔のことです。

大正六年、そのころは東京の警視庁自動車学校というのが一つしかありませんでした。免許証には甲種と乙種とがありました。甲種はどの車にも乗ることができましたが、修理もできなければなりません。乙種は限られた車にしか乗れません。

父は東京に下宿し、何か月も



たところでした。

当時、日産もトヨタも織機会社だったそうです。大正十一年に父は車を買って、足利市永楽町でタクシーを始めました。どこまで乗っても市内は五十銭の料金でした。四、五年頑張って新型シボレーを千三百円出して買い入れました。

ちょうどその時、地元出身の大臣、横田千之助という人が、錦を飾ってお国入りするというので、足利の全市をあげて歓迎の大パレードが行われることになりました。そして、父の新型シボレーが大臣の乗用に指定さ

れたのです。当時の父は、一生で一番うれしかったのではないのでしょうか。

大正十四、五年、中野紺の全盛のころ、機屋^{はたや}さんが出資してT型フォードを一台入れ、久保亀さんが中野村第一号車の運転手になって、結婚式とか旅行とかに利用したものです。父のころにも二回ほど修理に来たことがありました。

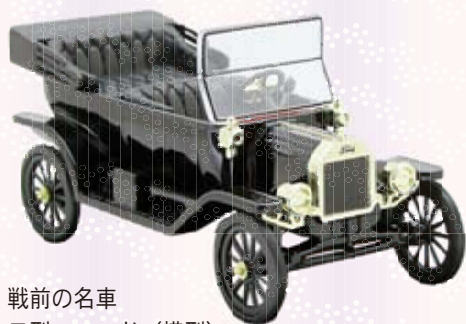
何年かたって戦争が始まり、ガソリンが配給になりました。個人タクシーが合併になると同時に、父も老齢になったのでやめました。

今日のように、一戸に二台も三台も自動車があるに普及するとは、夢にも思わなかったでしょう。

高齢者の語り第一集

「あすへひとこと」(昭和六一年二月一日発行)―思い出をたどって―より

「父と自動車」
故・武井 茂吉さん(下中野一区)



戦前の名車
T型フォード(模型)



きらめき輝く
キャンドル
(高島小学校)



Photo 広報担当者

ひとりごと From editors

▼1月号の広報おうらは、12月28日に配布されます。皆さんのお手元に届くころには、新年の幕開けを迎えていると思います。振り返れば、昨年の3月11日の東日本大震災は、日本人なら決して忘れられない悲劇のできごとのひとつとなりました。そのつめ跡は、放射能問題という姿にかえて、今も、そしてこれからも負の軌跡を描き続けていくのだと思います。▼今年も白い旅人白鳥が邑楽の地に飛来しています。白鳥たちが幸せを届けてくれる使者のごとく、たくさん舞い降りてほしいと願います。寒さ厳しくなるこの季節。皆さんも、お体をご自愛なさいますよう。そして、新しい年がよりよい年となりますように。(小)

広報おうら

ORA TOWN Public Relations



平成24年1月号 No.544

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692 (住所記入不要)

☎0276-88-5511 (代表)

☎0276-47-5007 (企画課直通)

☎0276-89-0136

URL <http://www.town.ora.gunma.jp>

E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。

携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>

